

SSC 埼玉県障害者社会参加 推進 センターだより

令和7年3月30日 144号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

メールアドレス

ssk080321@bz03.plala.or.jp

HPアドレス

http://saitama-shokyo.org/info/

発行

NPO法人埼玉障害者センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

頒価

一部100円(会費に含まれます)

発行日

10日・20日・30日

令和6年度合同研修旅行報告



学びの多かった研修旅行

(一社) 埼玉県障害者難病団体協議会

元相談員 田村 文子

ここ数年、コロナと能登半島の地震や豪雨などで研修旅行は実施されなかった。今年は久しぶりに開催されることを知り、以前障害難病団体の相談員を三年ほど勤めたご縁で、参加させてもらうことにした。

まず、旅行第一日目の1月26日、交流センターを朝8時半過ぎバスは出発した。高速道路を走るバスの車窓からは富士山の雪景色が美しく、旅の楽しさを一層華やかにしてくれた。その景色を楽しんでいるうちに海老

名に到着し休憩。さらにバスは走り「沼津グルメ街道の駅」で昼食。「お肉の陶板焼き御前」は味もよく量もたっぷりでお腹いっぱいになった。

その後、三嶋大社をお参りし、災害や戦争のない平和な生活を祈った。その後もバスは順調に走り、伊豆高原の宿泊施設「潮風館」には早めに到着した。

下車後、すぐに会議室で研修が行われ、椅子を丸く並べて話しやすい雰囲気良かったのか、皆がよく発言した。参加者からは体調の良い時には雇用されるが、体調が悪くなるとむずかしい。歩行に杖が必要になったが、仕事に杖を使わないでほしいと言われ職場復職が難しく、経済的に大変。又、無理して働い

ても収入が増えると、公的支援が打ち切られるなどの発言が印象に残った。就労に関する悩みは多く、病気や障害を持ちながら働くことの難しさを再認識した。研修会終了後にはゆっくり温泉につかり、皆で夕食を楽しんだ。

次の朝は9時半に宿を出発、宇佐美にある鈴木園でミカン狩りを楽しんだ。でこぼこ道の傾斜のミカン畑であったが、栽培しているスイートスプリングという珍しい品種のミカンで、枝から取って口いっぱいはおぼり食べた。さらにミカン5個のお土産付きもあり笑顔になった。

その後、かまぼこのすずひろで「金目の炙り御前」をいただき大満足。帰路のバスでは皆疲れたのか、静かに居眠りをしていくうちに新都心に到着した。二日間の研修旅行に参加してたくさん話して色々学んだ。そして元気をもらい頑張ろうと思う気持ちが強くなった。

合同研修旅行 参加記

三嶋大社・伊豆潮風館

埼玉県精神障害者家族会連合会

会長 一之瀬昌明
いちのせまさあき

交流センターに 8 時 20 分集合というので、遅れてはいけな
と早めに家を出た。日曜日の朝
だったこともあり、道はそれほ
ど混んでなく 8 時過ぎには到着
していた。バスに乗り込み、後
ろの方の座席に座る。

参加者がみんな乗車し、8 時
48 分には出発した。参加者 18 名
中男性は 3 名、ここでも女性の
方が多く活動的だと感じる。

参加者が一言ずつ、マイクを
回して自己紹介をする。天気は
上々で太陽が眩しい。

日曜日の割には
道は空いている方
で 9 時半ごろには
富士山も大きく見
えてくる。



私は窓の外を見ながら、メモ
帳に通過地点や周りの景色を記
録していった。バス旅行の時、
手持無沙汰もあってこんなこと
をしている。

11 時 25 分には「竜宮海鮮市
場」に到着し、昼食を摂る。大
きな食堂で、他の団体客もいく
つか来ていた。食事の後、大き
い売店でお土産を買う。美味し
そうなくず餅やニューサマーオ
レンジのジャムを買う。



12 時 51 分に三嶋大社に着く。
車椅子利用の T さんと一緒にな
り参拝をしたが、車椅子で神社
のような砂利道を通ることの困
難さを実感した。

その後、伊豆下田方面へ行く
道を通って、潮風館に向かう。
3 時 4 分に到着。各部屋に入っ
てひと休みすると、会議室に集
まって交流会の時間だ。



直径 10 メートルくらいの丸い
円に椅子を並べ、お互いの顔が
よく見える形で始まった。一人
ひとり、自己紹介を兼ねて、自
分の今考えていることや生活の
様子などを語り合った。貴重な
時間であった。部屋に戻ると夕
食までの時間に、のんびりとお
風呂に入ることができた。海の
見える大きな湯船に、贅沢にひ
とりでゆったりと浸かる。ちょ
っと熱めの湯だったがよく温ま
った。

部屋に戻ってテレビをつける
と、ちょうど大相撲の千秋楽。
巴戦の結果、豊昇龍が優勝だ。
(後日第 74 代横綱に昇進)

館内放送に呼ばれて夕食の席
へ。美味しく食べるとその後は、
カラオケ大会で歌の好きな人が
5 ～ 6 人、自慢の喉を披露した。
翌朝は 5 時半に目が覚めて、
早速朝風呂である。しかし、K
さんや I さんは早朝散歩に出か
けたようだ。それもいいなあ。
私は、風呂から上がると、6 時
46 分の日の出を待って、ホテル
の階段のよく海が見える場所か
ら太陽が顔を出すのを待ち構え
て、写真を撮った。



9時33分にバスが出発。右側には海が迫っている。みかん狩りの農園に到着する頃にはもう10時を回る。鈴木園というところで、この時期は大きなスイートスプリングという品種のみかんだそう。夏みかんのようなものだが、食べてみると瑞々しくて美味しい。ひとり5個のお土産をネットに入れてバスに戻る。結構重たい。

11時56分に小田原の鈴廣かまぼこに着く。さっぱりして上品なお昼ご飯をいただき、お土産を探す。かまぼこをたくさん買った。娘たちの分も。

帰りは、海老名サービスエリアで休憩の後、一路埼玉へ。まだ夕方のラッシュの時刻には早かったこともあり、バスは渋滞もなくさいたま新都心駅の近くまで来る。ここで4〜5人が降りてさよなら。15時29分、ほぼ予定通り県交流センターに到着。収穫の多いバス旅であった。皆さんお疲れ様。



伊豆潮風館前での集合写真

NPO 法人埼玉県障害者協議会

～令和7年度（第45回）総会のお知らせ～

日 時：令和7年6月7日(土) 13時00分～16時30分

会 場：埼玉県障害者交流センター ホール

【埼玉県障害者協議会 創立45周年記念講演】

テーマ：「ノーベル平和賞受賞にあたって」

講 師：日本被団協 田中 照巳 代表委員

時 間：13時30分～15時

★総会の前に研修会を開催します。

公開講演会ですので、どなたでも参加できます。



東京2025

デフリンピック特集

第4回

一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会

2025年、第25回夏季デフリンピック競技大会が東京で開催されます。

特集第4回は、デフリンピックのこれからの課題・未来について紹介させていただきます。

大会を通じてデフスポーツや聴覚障害者の文化を身近に感じ、理解が深まることで、様々な場面での環境への配慮がよりすすむ社会になることを期待したいです。



デフスポーツの発展ためには？

きこえない指導者を育てましょう

障害のある指導者が同じ障害のある選手を指導することは、ピアサポートの観点から見ても効果が高いのです。競技指導者の世界でも、ようやく少しずつですが、一般の競技指導者の資格を持つきこえない指導者が増えています。

指導者、コーチ、スポーツ栄養士、スポーツトレーナー等の資格を取るためには、講習や認定試験の受験が必要となります。きこえない人がこれらの資格を取得するために講習や試験を受けるときは、情報保障（手話言語通訳や要約筆記等）の配慮をしてください。



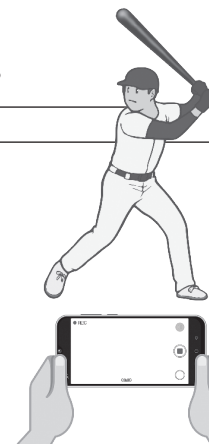
指導するときに気をつけたいことは？

動作と説明はそれぞれ区切って交互にしましょう

コーチが指導する際、実際に実演しながら説明をすることがあります。

しかし、動作と説明が同時だと、きこえない選手はどちらを注意してみればよいのかわからず理解できないまま終わってしまいがちです。指導の意図が伝わっていないと、競技力向上につながりません。

まず、説明を文字や図で示し、次に動作を実演して見せる、そしてまた文字や図で説明をするというように、動作と説明は区切って交互に行うと良いでしょう。



きこえない選手の競技力向上のために

指導の際には視覚的な工夫を

実は、競技力向上に音が大きな役割を持っていることが多いのです。例えばプロ野球選手は「打球音は次のプレーにすぐ移るときの大きな判断となる」、「バットが風を切る音で自分のスイングの善し悪しがわかる」といいます。

競技中に発生する音は競技力の向上に欠かせない重要な情報です。それがきこえないということは競技力向上の壁となります。きこえない選手に指導する際には、スマホやタブレット等で動画を撮影して、それを見せながら指導する等、視覚的な工夫が必要です。

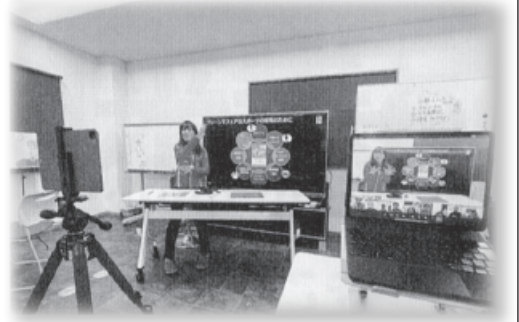


きこえない選手が研修に参加するときは？

手話言語通訳や要約筆記を配置してください

競技選手は健康管理やアンチ・ドーピング規定、ドーピング予防の知識を学ぶことが必要となります。特に、市販の風邪薬や花粉症の薬、サプリメントに禁止物資が含まれていることを知らずに飲んでしまう「うっかりドーピング」はとても怖いものです。競技選手のために、さまざまな研修が行われていますが、情報保障（手話言語通訳や要約筆記等）がないと、きこえない選手は研修の内容を理解することは極めて困難です。

きこえない選手が研修を受けるときは、情報保障環境を十分に整えてください。



指導のとき、手話言語通訳者がいれば大丈夫？

より良い手話言語通訳を行うために十分な打ち合わせを



指導の際、手話言語通訳者がいると、きこえない選手への指導の効果が高まります。手話言語通訳者は指導者のそばにつき、指導者の指示や説明を通訳したり、指導者が実演をするときは、通訳者も一緒に動きながら通訳をします。

そのときに気をつけなければならないのは、競技ルールやテクニック、戦術等の難しい言葉を通訳するために、手話言語通訳者もこれらのことを理解しておく必要があります。

指導者は手話言語通訳者と十分に時間を取り、打ち合わせをしてください。



学校体育や部活動に参加したときは？

きこえない学生もスポーツを楽しめる環境を

きこえない学生が体育授業や部活動に参加をするときに困る場面の一つがミーティングです。特に団体競技では、ミーティングで戦略等の指示を受けたり、チームメイト同士で話し合います。

しかし、きこえないとついていけなかったり、また意図をつかむことができません。これでは楽しいスポーツも、きこえない学生にとっては苦痛なものになってしまいます。

ホワイトボードを使い、指示の内容を具体的に文字にする等、視覚的な方法でちゃんと伝わるようにすることが大切です。



「ご相談をお受けしています」

埼玉県社会福祉協議会

権利擁護センター

小野寺 恵



権利擁護センターでは、障害のある方等を対象とした、次の相談事業を実施しています。

※FAXはすべて(048) 822-1406です。

相談日は月曜日から金曜日(祝祭日、年末年始を除く)です

●権利擁護相談

障害のある方、認知症高齢者ご本人やご家族等から、生活上の困りごとについてご相談に応じます。また弁護士や司法書士による法律相談も行っています。

① 法律相談(予約制)

毎週水・金曜日

② 成年後見相談

(予約不要)

毎月第4水曜日

時間 1時から3時
対応 1時から2時
相談 午後2時から午後5時

《連絡先・電話受付時間》

(048) 822-1204・1

240(午前9時から午後4時)

●障害者差別解消相談

障害を理由とした不当な差別的取扱いや合理的配慮の不提供といった、障害を理由とした差別に関するご相談に応じます。

なお、障害を理由とする差別に関するご相談は地域における理解の促進が不可欠なため、まずはお住まいの市町村に設置されている相談窓口へご相談ください。

《連絡先・受付時間》

(048) 822-1297

(午前9時から午後5時)

●障害者虐待に関する相談

障害のある方への虐待に関するご相談に応じます。また、職場における虐待について、届出・通報等の受付を行っています。

(市町村では、養護者・施設従事者・職場での虐待のいずれの届出・通報も受け付けています。)

《連絡先・受付時間》

(048) 822-1297

(午前8時30分から午後5時15分)

●日常生活自立支援事業

(あんしんサポートねっと)

障害や認知症等によって判断能力が十分ではない人を対象に、

市町村社会福祉協議会とご本人が契約を交わして福祉サービスの利用のお手伝いやそれに伴う金銭管理、通帳等重要書類の預かりに応じます。利用の申込みやご相談は、お住まいの市町村社会福祉協議会で受け付けています。なお、本会では制度に関する問い合わせに応じます。また、ご本人の状況によっては成

年後見制度の利用検討が必要な場合もあります。

《連絡先・受付時間》

(048) 822-1194・1

299

(午前8時30分から午後5時15分)

●成年後見制度の利用促進

市町村社会福祉協議会による法人後見事業の実施を推進するとともに中核機関の受託に係る相談や、地域のネットワークづくりなどの支援を行っています。成年後見制度についてのご相談にも応じ、専門職につなぐことも可能です。

《連絡先・受付時間》

日常生活自立支援事業と同じです

気になることがありましたらご相談ください。なお、相談内容によっては、専門的な相談機関等をご紹介しますこともあります。

また、対面でのご相談をご希望の場合は、可能な限り事前にご連絡の上ご予約ください。

生活訓練事業

埼玉県精神障害者家族連合会

『力作ぞろいの作品でした』

埼玉県精神障害者家族連合会

しらうちみわこ
白内美和子

埼玉県精神障害者家族連合会
は社会参加推進事業の作品展示
会を毎年、県内の会場（5プロ
ック）を持ち回りで開催してき
ました。

今年度は昨年に引き続き、障
害者交流センターを会場に、1
月28日～31日に開催しました。
70名を超える障害当事者、家
族の方の力作が揃いました。作
品の種類も多彩で絵画、アニメ、
陶芸品、手芸品、立体作品など
があり鑑賞者の目を楽しませて
頂きました。

まだ幼い当事者のお子様の作
品、お父様の油絵、遠くは秩父
からの出展もありました。



〈作品展示会の様子〉

精神障害当事者のひきこもり
の時期には、家族も外出はま
まらないことは多々ありますが、
趣味の手芸でそのような時を過
ごし、心を静められたというお
母様は、素晴らしい作品を出展
されていました。

当事者ご本人も自宅での時間
の中で「思いを込めて作品と向
き合ってきた」とおっしゃる方
通所事業所の仲間と作った方な
ど、それぞれの時・場所にに応じ
て思いを込めた力作が出展され
ました。

鑑賞されたご来場の方からは
次のような感想をいただきました。

- ・皆さん苦勞の中で希望をもつて作った作品だと思いながら見させて頂きました。
- ・作った方の思いも感じる事が出来ました。
- ・想像よりレベルが高く、数も多くて素晴らしいと思いました。

このような素晴らしい作品展
示会を開催できたことに主催者
として感謝申し上げます。

鑑賞者の皆様、ご尽力いた
いた関係者の方々には改めてお
礼申し上げます。

編集後記

2月のある日、我が家の梅の木から青い枝が生えてそこから白いつ
ばみの芽を出しているのに気づいた。春の訪れを感じる。三寒四温を繰り返しながら、陽光うららかな春が待ち遠しい。この会報が出るころは桜が満開。
作家渡辺淳一は「桜が美しいのは葉がなくピンクの花びらで満開に咲き誇るからである」と言った。満開の桜の木のしたにたたずみ、6回目の巳年の人生を笑顔で前向きにと思う。 〈田中〉

